

# 医系学生のつどい



2011.11.28 京都民医連



~come into bud~

芽を出す

11月19日(土)に、医学生・看護学生・薬学生のつどいを開催しました。当日は、雨にも関わらず20名の学生さんが参加してくれました。今回のテーマは「在宅医療を支えるチームの連携～その人らしい生き方のお手伝いをするために～」でした。シンポジストとして、仁和診療所所長の沢田医師、訪問看護ステーションつくしの茶谷所長(訪問看護認定看護師)、あゆみ薬局の西原薬剤師、京都民医連中央病院の大山MSWに来ていただきました。

最後に、「come into bud」はこの学習を通して皆さんに在宅医療について興味の芽が出たらいいなという思いを込めています。



## <感想>

診療所所長、訪問看護所長、薬剤師、MSWの様々な意見を聞くことができ講義で重なって、改めて認識が出来た点、初めて学ばせていただけた点があった、勉強になりました。

在宅実習でも在宅現場の実際をみてきましたが、人の数だけその人たちの生活スタイルがあり、生活に合わせた医療提供が必要となってくるなど改めて感じました。他職種と連携することで地域の人の安全で健康な暮らしを守っていけると思います。

ある患者さんが言われていたという「病院では主人公ではなかった。家では主人公」という話を聞き、さらに在宅について興味がわきました。

様々な職種からみた患者さんへのアプローチの仕方を学べてとても勉強になりました。

病棟での患者さんとの関わりとは違い患者さんとその家族、地域など生活に関わることを包括的に支援するという在宅医療の役割を知ることができました。

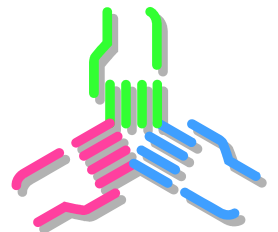
在宅の生活環境を見て生活背景からどんな看護ケアができるのか考えるきっかけになりました。

様々な職種とのチームプレーが大切でその中に薬剤師の方が入られていることに驚きました。

色々な視点からの意見を聞くことができ視野が広がった。

病院の中で患者さんは主人公ではなかったが在宅では主人公であるというのが印象的で病棟で働きだしてから忘れてはいけないと思いました。

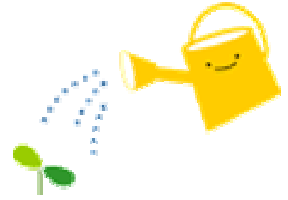
入院中からいかに在宅に向けての環境をすすめていかないとダメなのかという事を改めて考える機会になりました。



## ～全体まとめ～

沢田先生からは、往診の様子を動画で見てもらったあと、患者さんを病態だけではなく生活背景も含めて見ないといけないとお話をされていました。茶谷所長からは、訪問看護の魅力を実例を挙げながら、患者さんの生活やその人らしさを共に支える看護を語っていただきました。西原薬剤師からはどのような患者さんに配薬をしているのかや患者さんにきちんとお薬を飲んでもらうための工夫をお話してもらいました。最後に大山MSWからは、事例を通してのMSWの仕事と患者さんが退院してからよりよく生活していくために他職種と協力し、行政の力も借りながらその人らしく生きていける社会の構築が必要だと語っていただきました。普段は、聞くことができない職種の方々からのお話を聞く機会になりました。とりわけ、薬局が配薬していることに皆さん驚いていたようです。今回は時間が短く質問ができませんでしたが、また他職種の話を聞ける場を作っていきたいと思えます。

## ～グループディスカッション～



### <全体の感想>

#### 1班

医学生「患者さんの背景を見なくていい医療はあるのか。MSWの紹介ケースがよくあるという事に驚いた。」

#### 2班

看護学生「生活に入り込んでいる。その人に合わせた医療を提供しないと、患者さんの生活背景見ていけないし、そのためには他職種で関わらないといけない。在宅医療が重要視されてきている。自分が主人公になれるという思いに気づかされた。相手の意欲を引き出すコミュニケーションをしていきたい。」

薬学生「5回生の薬局実習で在宅にも関わった。男性で1日食後に薬指導をしていたが3食食べない人で、週1回しか会わないので1回だけでは副作用も発見できない。いろいろな職種の方が苦労している。」

#### 3班

「多くの職種が関わっていることや、ケアが大切だとわかった。」

「その人の家で治療ができるとその人らしさが出ると思った。」

#### 4班

「病院ではどうしても医療者側主体で物事を進めてしまうが、在宅では、患者さんとの契約から始まり、患者1人につき1チームが付くように患者主体での看護ができる。」

「在宅では1対1での関わりがとても大切にできていると感じた。」

#### 5班

看護学生「たばこやお酒などの生活背景がすごかった。こんな人が生活している。家もすごかった。どこから片付けようかと思う。そうした生活背景も含めて、その人のことを理解するのが大切だと思った。」

職員「一人一人の患者さんに粘り強く関わっていると。チームでやっているということが分かった。(薬剤師さんの話で)薬を細かく分けて患者さんに渡しているのに驚いた。職員はどういった思いをもってやっているのだろうか？」

#### 6班

医学生「色々な職種の話がきけてよかった。どの職種の人も、医師の指示がスタートで、医師の責任の重さを感じた。」

看護学生「授業では、あまり詳しい他職種の(在宅での)仕事はわからないし、今回の話をきいて、それぞれの職種の「チーム」のなかでの役目が分かってよかった。」

看護学生「どの職種も患者のことを一番に考えているのが、病院との違いだと思った。「患者さんが主役」というのが大きい。自分もそういう分野の看護をしていきたい。」

看護学生「今、在宅看護を学んでいるが、薬剤師の仕事を初めて知ることができてよかった。動画でのボロボロの家をみて印象的だった。自分も患者さんに寄り添えるような看護をしていきたい。」

### <自分が患者だったらどのように関わってほしいか?>

#### 3班

・親身になって関わってほしい。コミュニケーション、1人の人として見て欲しい、医療者がいない時間帯のことも気にして欲しい

#### 6班

・うちの祖母が、亡くなる10日前まで在宅。夜中でも、電話したら来てくださった。なるべく苦しむ時間を少なくしたい、という本人、家族の思いを尊重して関わってくれた。そういうのがすごくいいと思う。

・患者の思いを聞き届けてほしい。患者の要望を聞くために、努力してくれるのがいい。

・(もし自分の祖母だったら)祖母は話すことがとても好きな人なので、訪問のときに話をたくさんしてほしい。もし独居だったら、家に一人になってしまうし、地域と本人をつなぐ存在になってほしい。

・自分だったら、自分の生活スタイル、個別性に合った看護、サービスを行ってほしいと思う。

